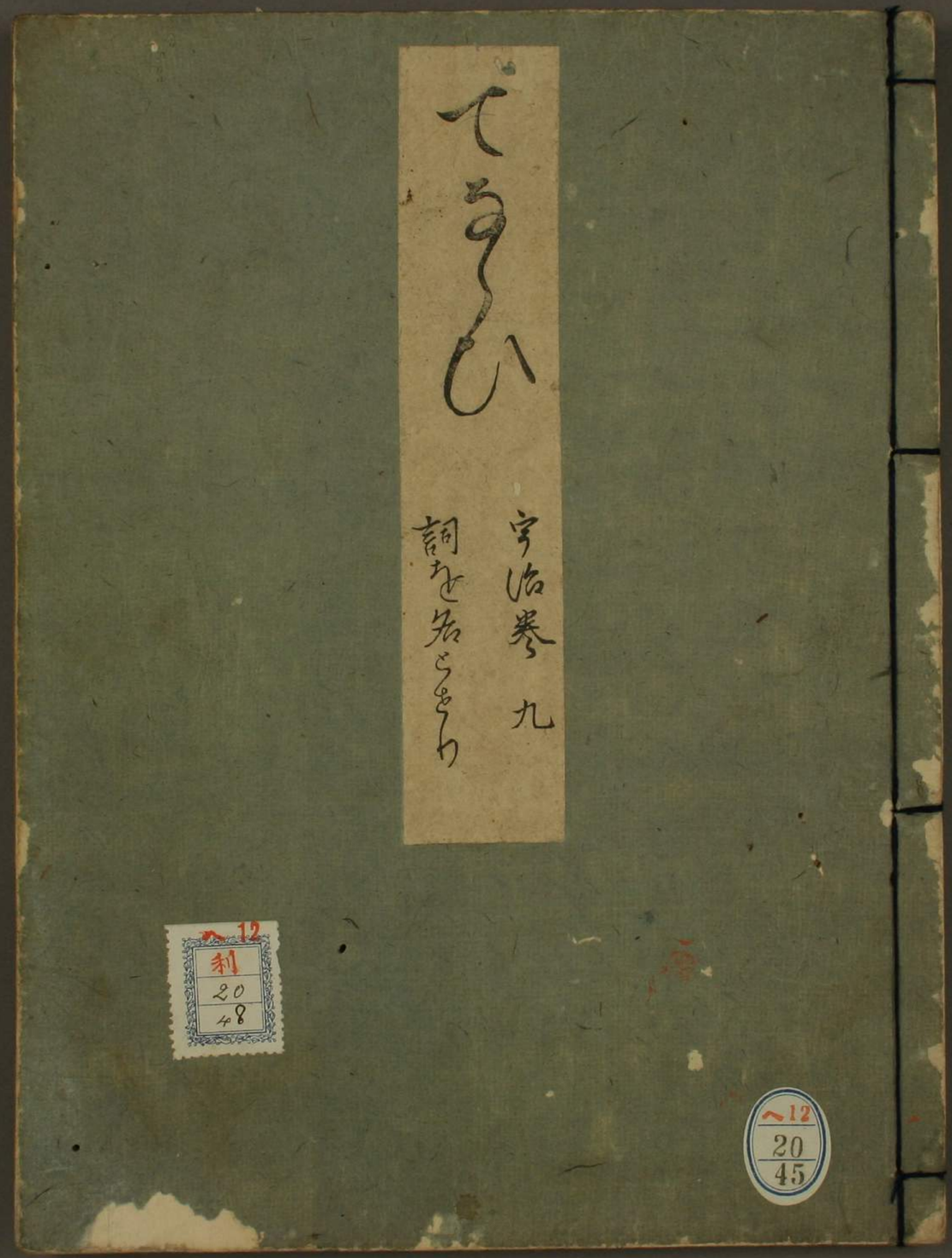
てるひ
宇治拾遺 巻 九
詞を名ゑらる

12
門跡
20
458

そのころ横川（よかわ）僧都（そうづ）とうしのてい（体）とく
そうとき人ぞありける。大尼（おおあま）の母（ははそ）上（うえ）とぞ
のいもうと（尼妹）をぐり（尼）ありて。だいぶつ（大仏）をまうで
でうむつまうやんごとなきのあざり
とをへて。仏法（ぶっぽう）ゆうずう（有通）をこるのそうごとぞも
ねくこもりくるこちして。ちるごとくいふ山（大尼）こえ
けるほどのこころのあま（大尼）ぢこうち（尼）あうし
くれぐくていりぞ。のうのこころをとぶらく
つんともてさぶらひぞ。ぢけ
けるに人のあり。けるよう
なるをいれいそうづ（僧都）よこ（横川）をそこうう。

僧都ふ
山ごもりの程いとくこ
限のさ間ろろおやのご
おごろこそいそこざも
あ〜め人のさ間をごげう
あ〜てごごーさそぐと家あごごろそこ
けごうごちけごをいこ
ちやこ始いぐごとうこ
僧都ふさもいみべこころ〜いと
むつ〜うもあればそや
ろごりて・れいすこ始う
朱雀院のれ行こて・こ

ちこんとやひいで・院寺僧都ごりのつりこれど・
一三日やごこんといひよやこ始へりこれど・ひ
をこちん姫日これまりこれごひ
宿りのおこれをこびて
やいこづこる院のこ
人ひこそやごり始よ
やけごこちれど人も
やこ始これおこれれいよ
こりこればごろそろこ
先僧都つり始いと
亦こちこまて・おこ

右衛門督
侍従

もつてこそひさうしあ
の面ひさうおよごとのあ
下らう活物よ。火とをて人もうめもろの
ろこいこそろ。まうと
まーげのつりやとこ入こうろこさまのひろ
ぎりこうぞこゆうれいかぞとまりて。火とお
くろてこれがまのくおろをぐこちりこうの
変化（へんげ）ーこうかよこてーこ。ひさりは
いますこーあゆこうこいうまひさりいあるかこう
こあれもろんとうひて。やうのまれーぞく
べきおんつりつこすぐこる代まもう（あぐらん）ーらお

うそあらぶふさりめべさ心ちすこ。死火とまー
うこ犬とこ。ぐりもるくあるさ面まてちう
くよりてそのさ面をこうれがこ代ちぐくりやく
うこて。だるまの根（ね）のいとあらくーこうよりう
あて。いうぐうるくめづこ（犬こ河）ーこさこもちべるれ。
俵数（ひょうかず）の汎坊（ごぼう）ようろんぎさせまうびやといへで。（あぐら河）げま
あやこさこくありとて。ひさりいまうでく。うあ
こるぐやよて。こうの（俵数河）人よ変化（へんげ）ろとい当よう
こけぐ。まぐいこめ拍ありとて。ひぐくありておりす。接（つ）
（凡犬を）つり始ろんとすることよう。でもそぐまろれ
ろぐくーこいこぐーぶるぐ。あうべーこうと

ぞもをろつりまけいそぐまれもりられぞお
ちびまりちぞーうよ。ぞ四人ーてうまる
抱をうよ。ううとゆまる。おやーうて吋ち
うつまでうく我ゆあけをちん人うまる
ぞとああーかうんと心ようべき言(ごん)をうこ宇(ん)を
りて心うよ。ちうくやはもうん。られも人
ありさくる(仮数行)ひざうのうーうめれよあーぞりて
うへちくちりう人うはあめそあめれまー
ちよりけう人をすてうりけうがようこぐへりう
とい(法師う行)ちよのう人をう礼院のうちよそて
ゆうん。ううひまとよこうもこ玉やうの

まくおざひうてうりもてこうんこそゆーめ。
ひとおびんよもゆられけーひあうべう家こそ
ゆめれといひて。おりひ言もりのおのこをうぶ。
山疾(びこ)のうちもいとおそーおやしのう風(放牛)コ
ひさいをーあげて(法師行)ひさう。愛(め)はつうさやちぞや
をう路。ううことるんあとてこうすれば(宮う行)ううー(宮う行)ち
つうまつうあり。礼すのまくよるん。吋ぐあや
しきひざるんーゆる。れうーしの秋もうく
ゆう人のおのふうぞうりコゆーをうりてまうで
こうりーうども。こおざうろうぞゆうさ。そ(法師行)そのちぐえ
もやもうーとう人が(宮う行)いうそ(宮う)ゆりう。狐いうそへ

人をおびやかさんとするに、
いとおそれうり。それ和尚
うをうるもべし。修行
ひざかれよくこころをそ
うをうれば、法師討
ものけんざんおりて
るをうりもべくとくさ
われていよくるくいで
や、まさよくれもんや
すっこ、ちをけんもう
あらんとむくつけらん

人をうそんとそそこさめをおそんとすれば、
うのがてるこれ法師討
あやしきこころもべ
むこと思ふ。あいくあ
ありめべし

つけ　そのおもうさま　人もれどころあり
なう　それがいつぞ　ものいふ　恨（うらみ）あつひ
さはぐ　そうそうすぐる時（尾書ノ汚）　ぐめ　わげもの　酒の
つき　ものすごくね　おもしろき心（尾書ノ汚）　うや　いうづくもの
そふ人のこころ　仏のこころびさ　人　ゆ
も　おやこころ　うの人なり　人　ここでうこの
河　おもう　いれそ　いうれこころ　いふ　まれ（尾書ノ汚）
まれまの　給　これ　ここ　おかいうづや　いう

それがうくの給ぞ　いうてうまはありて　ここ
のるぞそうくども（汚）　和　もいうずぬめ　男（尾書ノ汚）　まず　か
どやおうんとそれ　ど　そうそうくゆるく
うめうくそれがおさまり　ここ　ここ　ゆう　ありく
まどこうんとそ　ここ　ここ　ここ　ここ　ここ　ここ　ここ
二日ばりこもりおそ　おうりの人を　ここ　ここ
こころ　ここず　おやこころ　ここ　ここ　ここ　ここ
ど　ここ　ここ　ここ　ここ　ここ　ここ　ここ　ここ
まるうとそうひ　ここ　ここ　ここ　ここ　ここ　ここ
もそいふ　ここ　ここ　ここ　ここ　ここ　ここ　ここ
給　ここ　ここ　ここ　ここ　ここ　ここ　ここ　ここ

しとそよびつるれどこそびつこそびつこそびつ

思のほかうろうろ
こゝろもとなくて
うち和ぶくおいべ(尼志を)どう
つまらぬ人ぞろ
つべきもなくれば
これうてうき世の中はめぐりあひて
もろん月のごとやうに恨(うらみ)なく行(ゆく)も
しさ人おのうへ〳〵にさまざまで
られぬ。ぐあやうげ話(はなし)なんめりとよろづ
いでくる人もあるべし。いろ〳〵をいふ
あ人うちそろ〳〵もいづるあいだ。われ世を

あゝ如何ともいひやうがない。おまんも
なりしまつたよ。よろづ
こゝろぼそくなつて
ゆくこゝろもち。おとゝ
ばかりをたのみにして
ゐたのに。おとゝまで
おまんをすてゝ
しまつたら。
あまり七八人ぞうの
ひとたちがいつて
しまつたので
むまごやうのまへだ。
まへあるもの
そのあるものも
つけてこゝろぼそい
ありさまだ。
ありさまと。それよりも
いつそのこと
ぜんぶ

うへんけんちがやつて
こゝへぜんぶ
そこ元だのわづか
それはこゝろぼそ
こゝろぼそいと
世帯よおまんも
るそれはけつく
困るにつゝ
抱しんぼうして
をぶおまんの
招けるおとゝ

中約
例のおまよびそて、心もく
ちぐのまうり、ことく
られ山のとちんこまつる
しまくるよも心ゞ
ちく仕人のやうくちゆく
ごとも心ようちのそし
ちゆうまし、ゆひ話
よこそりてちんもし仕
う人いくうくうくや、
うぶちん和そんを
んそ、ちくひ話心

ゐづひいそそうう結ひ
まるんそ伯れど、例のん
うそあるまで世伏恨こ
ようひのへざる。今そそ
ぼそくばし伯物伏世
つおまいうぐるんそへ
いりてもおさけるー
うれすまおいすぐろる
それつるのくるれるぐ
れそそもんろもそ
ふるのそそといそれる

とほづぐあるかう結を
そそありそれるぐうそ
雲むーの声をそぐ
うの寝ままどひめおれ
るぐをもればやうよ
でんもいとやうくまるい
ありくまをあれんもむ
ゆへをぐうー結るがお
あうおまぐそやういまま
けるこぐりようべー
秋のぼてつわけう

ろくづげうて出ちんとするよ尾ゐ(ヰ)ちどおろ
ろ浅ゆくんでさ一つとて、おどろおどろ浦全
(中ね行)
ちるよりもちる窪もろろこ伯めればなどいひ
すさうて、いろうするさどん風ーんもさすどう
びんちるいさ田のくるよこえーう風のめう降りく
どうよ。つれどくちる心ちるどさめよ。ご山いろう。
あろうまてくちるれおくみびろうけそひちどころ
のう風よあそず。そう風ーとやへど、うりるんと
すうと、笛(ふえ)のちう(ね)へあうさ(尾ゐ)ずいどどおして
ひうさ有ようちうあどう風ろとちるろをくく

ちる(ほノ)ろうて語といよ。心(中ね)ところめうて
山(中ね)のちよいうまて月をちどめうんわやの
いさまもろうありやう風ろ笛(ふえ)のよろうこおそづさおうまーさ
めでくいろうろうこおそづさおうまーさ
わちうこどろむうーのうとちすどうも
ろりていうず。これともちろめちるべーいて(尾ゐ)その
琴(そん)のうくひうさの人笛(ぶえ)ハ月よいうをめうーろ。
抱ぞうーいどくいろうよさけどいうろうろ琴(そん)うてまられと
いうーろれ(中ね)ありとうろ(尾ゐ今ちう中ね)ノ事ハ二紙方ニ云
ろうひういうでこうりおうろんさどめちるよ世ぞ

れよつけて衣おる。げんそうをつくり
ゆて（中ぬ汀）いろ〳〵ことばの給むすめおまごられも
うそれどのすることのそうもて（たえ汀）ゆ〳〵うもこのか
きそしゆうい山風をのこうてられゆけうこう
ゆやそて（ぞや）いひごと〳〵ありてゆんと
いひおご〳〵ひく（琴を）（中ぬん）いまやうにくちべての人の
御いこれまざうりもなれが中くのづ〳〵
くわそれるこそ白。松風もいそうくもそてやや。
みさおそをうあえのるよ白ようそてするる
ゆうそれが（たえん）いよみくめでられてうるまごひもも
おきおそう（汀）ぞうふいもづまごとをこそて
こぐもちくひさゆ〳〵ご。今の世（よいかわり）まこう
まやおんなの修教のさ〳〵よて。念佛（ねんぶつ）うりか（かう）の
あぶつざうをそとりて（汀）ゆうさあられ〳〵ばなる
そてひさゆあるりうざういとうくあることも修り
とのひつでけて（汀）いとのひ白ゆ〳〵れば（侍ぬ）いと
まびやうようちつ〳〵のやちさこと
せい〳〵ま（汀）ゆけう修教れ物（ぶく）ふといみあう而よい。
がうちごまられうことをて夫人たごも
まひおそぶこそうとうれをこうひまごられ罪（つみ）
うべさとけとそ修うびやとまうをば（大たん）い
とうとそて（汀）いでとれりけそ（童ノ念）おづまらうてと

そこへちさを多へまぎれめべくかもちさべくさ
までもちよかつとあるとうとくとびさうかたちさ
さぐめぐるげる気色よそ
笛のねよ労のごく
袖でめれうおやもう
作るあり三風かおいびとれ
けうとありめづくうめもこぎちさこう
そうちされけうく
とづれつるぶくひうくうもおるれ人の
ろろいあれぐちる地るりろとそりうりり
りもやうくも耳るまくよ行うすぢのこと

ひとよもひもれさすべきう海よさくるうのそよ
とて独ちうひてよこめ
めりうくろろづよつけて世中とそひそつれど
つうさ人とてみうやうるうくひす
ばれうやどちりとそふぐうのうくひき
うりうそよろづのさがこゆうて行これの
乃地よもうりもうひ話りいぐづくく
めでうさもれよそ人りかり月よりて、このかまぢ
ちりをよまうび、ぢろいと心ぼそさ、ちさ
人のうへもやまれぎりうをうくめ人とを
ぢ話りめちぐさをうれが就きのれもうう

うれしくて、ごりょごりょ（尼考行）いざ
の人にやかもらんとするおうごれもれどやうち
ありとてそこちひろもんもろ〳〵ありさ〳〵あ〳〵お
ねうとそごのう〳〵ろれど、ほんうう〳〵ぶめとも
やうよいひもろ〳〵せつ〳〵ごびく〳〵まうでさもう〳〵を、
ひいもうそうよこそあめれ、余さ人心よるるぐ、ごひ
ありさいうごうをうるかといと心うさうちよも、
もろ〳〵ぬ人よごう〳〵てうるうちのありさをもうこん
よと、そろ〳〵ありそろ〳〵ろ〳〵ろ〳〵

うくるはへづくるそ
心ぢをあるおのおま
ひと・つ〳〵いだりでと
ほりをうづめいでく・おき
ちづくも今もいつぐを
ひとりまし〳〵給もめ心ぼそくもおぼえ
いとつれづれぢうる・中
ちといへど・ほどもいれ給ず・いとぢひともこそ
つれづれとこうくるさ
まりでもうづめさせ
いとあやもうこそ

うちとくもとめてそめてばうれと
とてかへすめぢ（かわ尺行）ぐりもうまでなりておりて
まをおくられ男をのうらぢまでなる女郎
まてちかへりくむよろぢあんじちしのれと
いふなどれの風のととうるどもちぢ袖な
文ありつる中おりてこいでとう。おれうてこいでと
ぢしのへぐおくかくいりおれをさもあまりうも
おりますれぢれこうろぢれほども表まろう

ぬりまてそのめれはのうちもこうてなりいもことも
こうをのへきうりんことのやうよおばしうふ
てそおどりうりさもくおばゆおれをあ
ようをへぐひるのの二ほんそどそひうさて
うべいとことなくてそのもさて
ねうぢ（かわ尺行）ぐりてうそんことなくてうく
ーとも（かわ尺行）ぢーことそれとようづはひとびて
いとおうく（かわ尺行）ぢうつてそよくまもうれぬき
山里（中わ）のあさ（中わ）ぢ秋ふうさあそれをよ思
人はりひとそれをのぢれゆをうひめぐさ

さすがおれだ。おまえがふるまへばこそ人もそべばこそ。ひとせもれだ

（はうさう）とそのまゝで。すぐと刀を抜き

人とゝもにたゝりつゝ

人のれこころをそうぞうまうこと成ずるを。
こゝろぐ年月をゆきそこゝろこゝろぐれ
ようてうれしくれもしくこゝろこゝろの
れあるともこゝろずそ。こゝろすぐさこゝろこゝろ
さぐめ給しひとつけて。やうくこのこゝろをも
ちぐめべきあるまうてそこゝろひ
ろ分をさまてゆけば学をすこゝも表とさひ学
けん心ぞいとこゝろあ。さぐこの人のれゆうる
さすくへぬうぐくまれ多をこゝろ
ちぐり給しをぐそこゝろ学んとこゝる
ちくあるさこゝろ心ちす。ぐめうりすおこゝろも

のどやうな物しひとつひとつひとつ成ず
ふいづるぞよるうりけ成ず。
さこゝろれそまうこゝろ
まうめべしさすぐこゝろ
そうぐるこゝろ分をこゝろ
ろのやうぐよるこゝろひろを久
さふうこゝろ馬のこゝろをこゝろれ。
我のこゝろをこゝろんいうこゝろとも
こゝろあしてこゝろもこゝろ
人もこゝろのふるよびこれ人
ひとこゝろこゝろぐ

うそそそあ〜めと・ぴあぐうもとうるさあよ。
本地のろびろの母ころびうれこととろさびぐ
しまへるぴとあろ〜ぴるるん。
ろぐろ〜いさろろとまて・ぴやすのけろ・うびぐ
おねの尻いぎうとれあぐりのそろるあひてふも
ゴおろう・左満つこれのろうへる
あへ〜らみそて・ろう有ぐめぐ〜そさろる。
ぐうるゆるものへぐめぐ〜けうほぐる。
うれきろ〜けうこいれるぐ〜けうほぐる。
こもさひうちて・ろうるこくるんとあねのまよ
つげうれば・まひてろそろる・つぐれうへの

夜河さちぐとこさうぐうてこをろそそまうり
て・おや(俗数行)のれうろをおぐこ
ぴろうとともちろ〜めぴぐ
あろろ名ろけろおれ(お名尻行)あろ
ひぐろをせのふ(尻去ろ)へろ
こと・をの名をんとへぐ(俗数ん)・うぐうりよもそめつるを。
ひふろともまれ〜しとろてそうづいるめのへで。
(お名尻)うりてもえろ液ろぴぐ・ろてん三ぐい中(ちう)ちぐいよ
ともふ(ほん)ろうそそ〜〜まれをとくふ出るもろすぐうり
うりれぐてもそぎひぐ〜ひのぐ(あぐうり行)やうる尻だろうもそ
るををろる人とふひろいい俗数ぜそぎめふ。

らいげんさ〜ごろやうるんねればとけを
まぎれなく会(ゑ)〜ゆめゆめんとそおくこまり
ゆうとごろ作ごとけのそうひさこと・ふぐく
けり〜ありおれもよくはけのそうひさこと・ふぐく
るみうがおそろ〜ふぐの結つうでるいつと
あやまく〜けうのこと(赤代てすとこ)るんこの人〜ば三月(やよひ)よ。
幸先(さいさき)て侍うねの(ね)ぎまてだうをまうで侍(はべ)。
久さ(ひさ)れ中やどりる。宮居の院(ゐん)とひ侍うあまり
やどり〜とくのごとひさすまでそ〜へめう大
あう所いよ〜めう抱くるずうとひすまて・をまさ
病者(やまひびと)のあ〜きこごやとぶの人〜もうく

そ・れそうけうり〜ぶをうろう男(をのこ)名(な)・げ(守文羽)
ゆくのごうるうこと・ひとそ・ちくさうう女人(にょにん)で
これのりうをおそろ〜ひ名(な)おねのうくこ
ことととさくうり・おごろうさを結人(ゆひびと)でそ・する
うう・ず・そうげ・そごうさをのへるばそ〜ふをこうろも
あるさことけりてやひそ・くそ・そのごり
ばれこ・とをびいひさうひ(まにん)ふ人(にん)これびまるを
出(いだ)ばつうろうあまどもあひとひ
ばんとそ・まりよろ〜ふ望(のぞみ)ばうあまどもあひとひ
ろうごう〜ふうさうひばう(すけ)家(いへ)乃

くべくらゐなりこさ。るぐーがいまうと。
おほ(おん)のこのめよ仰ー范(おま)ちんうをまー女(さな)ごの
そりまと。そろこびゆりてぐいぐんよいさりり
ーづさ仰けをぐくりれがうこと仰ある。
ぴまぐそろもいいとうろーくけらって。をこ
るひやつれんもいとおー。ぴよんゆー。るびと
こうゆりけんと。物ようくいふ仰物まて。そうつづけ
ドのへべうぐでさうあこ。よう(小業相引)
のさけんさりさし今いまくれめんあどし寧相乃
まぐそふ。そ(仰幼引)ずさもやくろこひゆんまこる
やもごとるさへるべいるるかれも仰ごを。

お中べのむをめも。さろさ陽ーうこていゆうめ。
うの中より。佛むされ治ぞいそゆあうへ人
まそいうこと始。そのこ(中ろん)ろされて
ひとをおぼーいづ。こ(実ろん)のはまへもおへ人ろ。おやーそうを
さればそれまやあんといやろへ人さはそうをさ
とより。仰数もう引ろへ世ひそれでぐめるさ
じとうくもあーめろさごろへ人もあやうは
あむけて。ーまびゆうをとのそ海のあや
ーさればけいーゆうより。る海ぐみそーさ

あれびとをもとそ（中文訓）
ちねこそをゞや（寧ろ）この人そのなれど
くるもう〳〵すべさこをそのてさるんとも
ちゞずちゞ〳〵そづ〳〵げるうへようち出の浜も
んもつまゝくゞ（女）水底をこ
うそてさをゐて（尼君）そうゞものゞりぬ（小舟）こうり
そつきもそめべさ〳〵とをのゐひもおいをずゐり
ゐけっこゝとをるんいと（俗訓行）
ゐゝ（俗訓行）風てゞれをそ光ろつくき
さゞめるさせゐりうるさゞよゞ〳〵うるも

こゝろうるゞゞ（俗訓行）やとの路よもいとそづ〳〵く
ゐんゞゞけるれ（俗訓行）風うゞ〳〵ゞ〳〵ゐへとて
あやうす絶をめるゞ〳〵ゞ〳〵ゐ和ゐさ路あるゞ〳〵
ゞゞんゞゞりいつうまうりゐんおゞ〳〵ゞ
ゞゞみべさつるさ世よゐひ出てゞんの菜花（あゞ）
ゐねゞひまもるさゞりゐんゐをくすてゞく。
我もひとをゞゞべるゞゞとゐあゞゞろ林（その）も
中ゐをこゐひつをめ路ゐん方いゞゞゞいうゞめ
ちくもそゞ〳〵もゞゞすべさこれゐんゐも。
薬のうすさゞゞとゞ〳〵といひをゞて松門（まつかど）ゐ暁（あかつき）る
つそ相徘徊（たちもとほり）すと法師ゐれゞゞとうくもう。

中略

まへ人もあくでとちやまをうしろみ
ふくる夜ですぐうちふしぬ。うつゝなきものおもひ
ちをつゝさゞのそでさへぬれまさり
いさゝかうちとけてみるのあまのおきなどころ
契(ちぎり)しもうすくはなちそめけん(かわ尼)
こゝろ人のもとをまねきてそでをぬらす。
うすきまよひ色のあやおりかけたるうちぎぬ
かぎりそでいとさゞやかにうつくしげ
うちとけてみるのあまのおきなどころ
やうこちたうこゝろにくゝ今めかし
ものやうのげさうをいとゞくしんやうす。

あく〻のうりをそらひちどをおちをずゝし
ちうさまばようちうけてのぼるこゝろをのれてうし
とぐめぐさ心ちすることまいて心ぼそく
いうこゝろそまりおちんとをそゝうべくさり
まやおりけんさうじのまよおきうろ
あれとをへて、まぐうべのまよおきうろ
中わん
いとくしもそゝぐまをしうぐくまふこゝろ
ちりけうへとゝうぐそうんあやまちのやう1.
ものをくやそうくれがいくこをあへ.
把ぐうそくけそひもそえめべそれぐのそう.

ひろうもろこうめ。春のそら
つくれるもののそともあさ
まどふとの給へ人心うし
る袖そのなりもぞれこと
ささくす空山のゆき
しこそでふもるもきおる
とをるひのまに花もまる
ぞめるを。ちる時も
ありつれをそそのこるうぐひす
てこそうけつを。おまぢ
山里の雪まれつもやしれぬひと

のこれまるくおとて山方よ
雪みつさ咲べのつれも今うらいまんぐるあるぞ
年もつもべさとあるをさそ学すんと表ろもこう
ひろべさ咲き梅の色もうそうめとまやの
やのつまもさ匂ふ心よそのあるいおぐらし
くる学ふも兒心よそのあるいおぐらし
ひのもこけるや後まよあるてまつを給ふら
うの尼のすつくちさがあるめ出て学なれば
ふくぐくちるいとぐひそれが
袖ふれひとそそこの学のみそれる
まの明ぼの

おほまごころみのむまごみ紀守（きのかみ）ありけるがびごろ
のぼりてこころ。三十（みそぢ）ばかりうへそこちこころびて
ゆくりなくこころ陰（かげ）しこころをもあるごとくかこそおほく
しをぐこころよ。ぼけ（大尼）ぐし（紀ち汀）こころをあれば（尼去ノ上）ごころる
こころそ。ぐこころまくこころ（尼ノごこ語）これあくれ
まゆるれのこころるされ陰こころをあれかも
こくこころそ。こをこ自ぐこころまゆるよ。
ありやこころ（尼去）ごころ月をゆるよ。
ゆこころ。一所こころそれこころ
こころくゆるれ為（ひこち）性（当叶ノ常陸加ヅ）のかのこころをぐこをづれ笑
ゆやよいいまう（紀ちぐ）こころべし。こ（尼去汀）月ましへ
てはこれぐこあこれこころのこまりてゐん。

いそぐほつけてそ。ほのの表れとあるそうの給（足高刀）そうともおぼしめしといふ給うんをひきもよんでなくてそうろうされ。そこまけそうろうつのの文あひちなど。ひさもくそくれこれぐるをくしく給るつけても。男のへおぼしめぐ心也そぐり。志ろあつひこころ（足高女子）らんやうくちるてそうろうあうん。そこるぐる易こうろ風はそくぐ給うを。し来そこでさ男（母ノ字）給人へぐ給んうくとのまへぐ（法刀）そうほぐまでいひそうろうもれーぬこと。このつきぐ（母ノ字）うちやそ給ぬんとて。洞のもろうをまぐうつて

中くとも（法刀）ぬうつのてそうろうそ給れぐこそぐらそしいでれ。なぐそくしるまぐくよりのそ給んとぐくずくちるの給るつ。ち（法刀）給。いこ（ほくそひくる）のそのもぐちるぐをもてそ。つるくてもやそめろれとあれるぬぼ（ほくそひくる）ひちのなどもつ（え服く）ろうくうーい。蕊（六位く）べよるー。つぐれつさのぞこるぐいさうろ給うろ。つくいるろぐるこ。ささのげをぐ。ちくつひるくんよ（中ム）ぼーうりつ。而ちぐありてそあやろうあ。和の文ままいりの人宣。れまへのぐやろうロまそ（法刀）つでよ。あやーくそ心ぼろうそひこ

ゆへとつてもつてそのちゑんぎやうぐをこと
けるごとくにもんぢやうをいとりくしてさうこともん
ありけるとおぢ方の祖父のつゐでよ信敎のそひ
とこゝろをれとの話すれまつへごとつまを話もん
ことをもつてこゝろへいでうとこゝろをすれど
さ而ぐもうこゝろをもつてゝ父ぬいこゝろをそ
あるやとの話すうも心そてありとこゝろをうて
うりて祖父ぬぐ話つゐでよひの出さうぬんづ
ないつでうあやしとこゝろをおごろれ話はざうん家乃
こゝろを話しもうこゝろをおごろれ話はざうん家乃
ありさうちどうの話こゝろをはれなばしうりて
人はすべてもつゝめをもつてこゝろをつゝれど

秋まるこゝでめうるもしさ而のことをそめざう
しばまそのちもちをおこゞまりさ心ちして
人はすべてもつゝめをもつてこゝろをつゝれど
ともおんこゝうつのの人ぐの中ゝしのづる
こゞざるれあり世中ゝ兵ぬいりてごの乃
人はどもうんありしちをおやとやしく人のと
うちそもさ心ちしてあやとやしく人のと
そもをけう人のおりさ而られそその人ぐれ
あんやとのうまへぐ信敎の心うち出しく日
ぬん尼はちつゝいうつゞひしく程よもれ
人均ゝそをもざうしさうゞみの程い